

基礎セミナーA

2021

第3回

名古屋大学減災連携研究センター
平山修久



名古屋大学減災連携研究センター
Disaster Mitigation Research Center, NAGOYA UNIVERSITY

ワークショップグループ

A.門脇涼汰, 水野草太, 飯田貴大, 浅野真依

B.小野菖平, 八木健太, 清水侃, 川野蓮弥

C.河島礼奈, 西川雄規, 鈴木瑠希也, 千野正博

ワークショップでのテーマを決めよう

ワークショップとは何か

- グループによる知的相互作用
- 多様な人たちが主体的に参加し, メンバー相互の作用を通じて, 新しい創造と学習を生み出す方法
- 【広辞苑】所定の課題についての事前研究の結果を持ち寄って, 討議を重ねる形の研修会。教員・社会教育指導者の研修や企業教育に採用されることが多い。

ワークショップの進め方

- 基本 -

> アイデア出し

- ポストイット（小）にテーマにあうアイデアを書く

> アイデアの整理

- ポストイット（大）を使って、同じ意見、対立する意見などを整理する

ワークショップの方法

- アイデア出し -

> ポストイット（小）にテーマにあうアイデアを書く

- **具体的に記述する**
- **主語、述語**を記述する
- **1枚に1つ**の内容を記述する
- ラッショングペンで書く

…が
…となる

…が
…できない

ワークショップの方法

- アイデアの整理 -

> ポストイット（大）を使って、同じ意見、対立する意見などを整理する

- 文章で記述する
- 元のカードの情報をできるかぎり残すようにする
- どのような理由でこのような意見が出てきたのか説明できるようにする

…が
…となる

…が
…できない

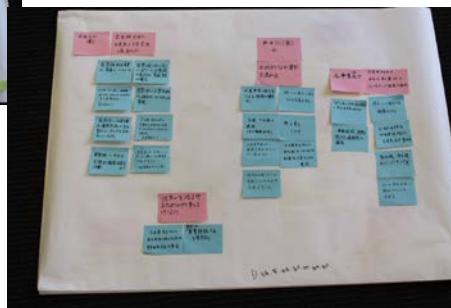
…が
…となる

…が
…となる
…が
…となる
…が
…となる
…が
…となる

ワークショップの様子



ワークショップ成果例



基礎セミナーテーマ例

- 発電と災害と環境との相互関係を明らかにする。
- 地震の被害とその対策（地球にやさしいまちづくり）を考える。
- 火災に強いまちづくりを考える。
- 災害前にあなたができるを考えよう（人間の生活環境を変える）
- 台風の被害とその対策を考えよう（水からきれいに）
- 南海トラフ地震への対策とその後の生活環境を考えよう
- 災害が起きても使える建物にするには
- 減災を考えた気候変動対策について考える
- 持続可能性と災害への耐性を併せ持つ社会システムを構築する

本日の議論の方法

1. コラボレーションルームに移動。
2. まず、グループ別に自己紹介（簡単に）。
3. チャットで全員に対して、災害カード（災害が発生したら困ること）を2つ文章で入力する。
4. ホワイトボードを画面共有し、チャットの文章（災害）をコピー&ペーストし、テキストボックスを全員分（8個）作る。
5. 同じもの（災害）をグルーピングする。
6. チャットで全員に対して、環境カード（環境で問題となること）を2つ文章で入力する。
7. ホワイトボードを画面共有し、チャットの文章（環境）をコピー&ペーストし、テキストボックスを全員分（8個）作る。
8. 同じもの（環境）をグルーピングする。
9. これから何をやらないといけないのかについて、グループで議論して、ひとつ のテーマを決める。発表者を決める。
10. 全体ルームに戻り、グループ別に発表。

グループ別発表

2021年度基礎セミナーAテーマ

- A.
- B.
- C.